

足立区議会議員 だ だ 太 郎 様

足立区議会議員 35 番 くぼた 美幸 印

一 般 質 問 通 告 書

今定例会に下記要旨の一般質問を行いたいのので、会議規則第59条第2項の規定により質問通告書を提出します。

記

行 政 区 分	質 問 の 要 旨
1 地域のちから 推進行政	1. 区内在留外国人の諸課題について 国内では1990年代から生産年齢人口が減少しており、それまで働いていなかった女性や高齢者が就労をすることで労働力を補ってきた側面がある。しかし、2020年代では、人口減少に歯止めが掛からない中、女性や高齢者の就労だけでは生産年齢人口の減少を食い止められないと、国立社会保障・人口問題研究所は指摘している。そのため今後は、外国人労働者の受け入れが社会経済を左右する重要なテーマになると考える。区内においても外国人人口はこの10年間で約1.7倍近く増加しており、区の人口推計でも今後の外国人の増加傾向は、顕著に推移をすると予測している。 (1) 現在、区内における在留外国人数と人口比率を伺う。 また、現在の国籍別の人数は多い順ではどうか。 更に、今後いつ頃外国人数および比率が一番高くなると予想されるのか、併せて伺う。 (2) 区内在住の外国人にとって、自治体における充実した外国人相談窓口がある事は重要と考える。広島県安芸高田市では、多文化共生推進委員が外国人からの生活・医療・転出転入・就労・金融・教育・日本語等の生活まると相談を、一人ひとりに寄り添い実施し地域コミュニティに繋げるまでの支援をする為、外国人から大変高い評価を得ているとの事である。当区でも外国人の相談窓口は、地域調整課が担っているが、出来る限り伴走型で寄り添う支援体制を構築すべきと考えるが伺う。 (3) 当区の北部地域においては近年特に中国人の転入が数多く見受けられる。区内における中国人の人数は、10年前の2013年には約8,500人だったのに対し直近では約1万7,300人となっており、この10年で約2倍、数で言うと9,000人
	6月13日 午前・午後 8時45分受付 質問時間 20分

行政区分	質問の要旨
	近く増加している。これは、東京都内で一番中国人が増えている区であり、中でも区内北部地域等に集中している。住民の中には、急激に増加した中国人とのコミュニケーションに戸惑いつつも、より良い関係性をどの様に育んでいけるのか悩んでいる等の声がある。外国人の相談窓口だけではなく、地域住民の外国人に対する相談窓口の充実も望まれるが、今後の対応を伺う。 (4) 以前、ベルモント公園で開催されていた「あだち国際まつり」は、各国の民族舞踊やゴスペル・伝統楽器の演奏やその国の料理を味わえるイベントとして区民に大変好評だった。今後は、開催場所の検討も含め、且つ内容も工夫し新たな形での開催を望むが伺う。 また、その際に転入された外国人に積極的に声掛けし、参加を呼び掛けるべきと思うが、併せて伺う。 (5) 昨年7月に川口市内で起こったクルド人のトラブルの発端は、男女のもめごとで怪我をしたクルド人男性が総合病院に運び込まれ、その後、男性の救急搬送を聞きつけた仲間のクルド人が100人程病院に集結し、一時は救急搬送の受け入れが全くできずに停止されるという大騒動が起きた。川口市議会は「一部外国人による犯罪の取り締まり強化を求める意見書」を採択し、内閣総理大臣等に提出した。この様なケースは全国的に見ても一部であると思われるが、当区において外国人とのトラブルの現状はどうか伺う。 また、トラブルを起こさないようにするには、どのような施策が必要と考えるか、併せて伺う。 (6) 政府は本年、外国人技能実習制度に代わる新たな制度「育成就労」の創設を決めた。これまでの技能実習制度は帰国を前提としていたが、育成就労は育てた人材が日本に残り働ける点に強みがある。この制度を利用し、人材の長期的な定着が重要と考えるが伺う。 (7) 育成就労は政府が受け入れ見込み数を設定し可否も判断する為、求める人材を必要なだけ受け入れる仕組みとの事である。この制度により国内において労働者側は、技能を高めつつ昇給や昇進が期待できる一方で、特定技能の試験に合格するには、日本語能力の向上や日本語独特の読解力が求められる。そこで区として、今まで行ってきた外国人に対する日本語教育の支援策の現状と課題を伺う。 また、今後は今まで以上に拡充すべきと考えるが、併せて伺う。

	35番 くぼた 美幸
行政区分	質問の要旨
	(8) 現在、区内在住外国人の日本語教育は「足立区日本語ボランティアグループ」が担っている。講師等のボランティアには、区から補助金はあるが、教材費や交通費等の不足分を自己負担している現状と聞く。補助金の増額をしてはどうか伺う。 (9) 育成就労に依って雇用期間の長期化が見込め、企業側にとってもメリットがある。区として環境整備をする企業に対し、広報誌等でPRしてはどうか伺う。 (10) 災害時において外国人は災害情報弱者となる。自治体や警察・消防が発する様々な情報をどの様に多言語化し、且つニーズに合わせた情報伝達をしていくのが課題と考える。区の現状を伺う。 また、西宮市・京丹後市・城陽市3市の国際交流協会では広域多市連携パートナーシップ協定を結んでおり、市内だけでは対応できない言語や、緊急性のある時に連携し多言語化に対応するそうだが、この様な自治体間の協定も研究し、災害時における外国人への情報が確実に伝わるよう工夫すべきと考えるが、併せて伺う。 (11) 区内の外国籍児童・生徒数は予想以上のスピードで増加し、既に2,000名を超えたが、なかでも日本語指導が必要な児童・生徒数は昨年の令和5年度に急増したと聞いた。これに対応する為の日本語適応指導講師は拡充されているのか伺う。 (12) 東京都内においてウクライナからの避難民を一番多く受け入れているのは当区である。昨年区が行ったウクライナ避難民に対する生活状況を尋ねるアンケート結果では、約7割が日本語を学習しているものの、会話や読み書きは約8割が出来ないと回答している。また、就職状況も半数が仕事を探し続けている。戦争が終結したとしても日本に住み続けたいと半数以上が回答している事からも、区として今まで以上に寄り添う支援の充実が望まれるが伺う。 (13) 区では今まで、地域とウクライナとのコミュニケーションを深める為、様々なイベントや地域で行う行事を周知するなどし参加を促して来た。参加状況はどうか伺う。 また、昨年好評だった事から本年も来月開催される「あだちの花火大会」に招待してはどうか、併せて伺う。

	35 番 くぼた 美幸
行政区分	質問の要旨
2 都市建設行政	2. 竹の塚・西新井周辺地域の課題について 先月の23日に竹ノ塚駅の高架下にオープンしたEQUiA(エキア)竹ノ塚は連日大盛況で賑わっている。12年振りに戻ってきたスターバックスを始め、竹の塚地域には初出店となる店舗も多いことから大変に好評である。にぎわいがあり、安心してみどり豊かなウォーカブルなまちづくりが期待される。最初に竹の塚の今後のまちづくりについて伺う。 (1) 地域住民からは、今後の駅ビルについて問い合わせがある。現状の既存の駅ビルには、生活雑貨店とレンタルオフィスが稼働しているが、やはり駅ビルを新たに建設し、足立区の北の玄関口にふさわしいステーションビルとして生まれ変わるべきと考えるが、今後の方向性について区の見解を伺う。 (2) 駅の利用者から利便性向上に対する要望があった。以前も要望したが、やはり駅の改札の増加を望む声である。EQUiAの中央に店舗間の空き空間がある。具体的にはアイスクリーム店とたい焼き店との間にあるスペースに、新たな改札の設置を東武鉄道に要望すべきと考えるが伺う。 また、駅構内において現在、階段は3カ所整備されている。しかし、一番西新井駅寄りの階段には、エスカレーターが設置されていない。1階から乗降口のあるホーム階まで、約60段もある階段の昇降は、障がい者や高齢者にとっては非常に困難である。エスカレーターの設置を強く望むが、併せて伺う。 (3) EQUiA周辺に自転車の駐輪場は135台分あるがすぐ満車になってしまい、利用者からは増設をして欲しいとの要望がある。区では、東口広場に一時利用の駐輪場を設置しており、そのノウハウを活用しながら西口の連立事業用地等に、一時利用者の為の自転車の駐輪場を設置すべきだが伺う。 (4) テイクアウト出来る店舗はあるものの、飲食出来る店がEQUiAは若干少ないとの声もあった。有楽町国際フォーラム高架下や渋谷横丁は、気軽に飲食が出来る屋台村として人気である。竹ノ塚駅周辺には以前、おでんやラーメン屋等の屋台があったことから、駅前広場にキッチンカーを含む屋台村等を、東武鉄道に提案してはどうか伺う。 (5) 昨年の4月に施行された「足立区客引き行為等の防止に関する条例」は、警察その他の関係機関と連携し着実に推進されて来たと思う。区民からの評価も含め、現在までどのような成果がある

	35番 くぼた 美幸
行政区分	質問の要旨
	のか伺う。 また、区では竹の塚地域で365日重点警戒を実施しているが、警戒に当たっては事業者の機動的且つ、緊急事態にも対応できる適応力が欠かせない。事業者の選定に際し今後は、プロポーザルを行うなどし充実を図るべきと考えるが、併せて伺う。 (6) 区は、東口交通広場を拡張するため、竹の塚第五公園をまちづくり用地として活用するとの事である。この公園は商店街の中心部に位置しており、他の公園に比べると利用頻度は高く癒しの効果を感じるとの声もある。一方で、以前一時的に数人で昼から飲酒をし、大きな声を出して周辺住民に迷惑行為を及ぼし、警察官が度々出動するなどの事件があった。その後、粘り強い対応により、現在では改善されたが、周辺住民の中にはまたいつ同じ事が繰り返されるかもしれないと憂慮する人もおり、公園の廃止を求める声もある。この様に、第五公園の評価は地域の中でも分かれる部分がある。UR都市機構の竹の塚第三団地ストック再生計画を柔軟且つ速やかに進めるためには、第五公園の敷地の有効利用は必要と考える。何故、第五公園を廃止しなければならないのか、UR都市機構と調整しながら出来るだけ分かり易いパンフレット等を作成し周辺住民に配布すべきと考えるがどうか。 また、住民説明会をタイミングを見計り開催すべきと考えるが、併せて伺う。 (7) 区営竹の塚六丁目アパートの建替えについての居住者意見交換会が2月に行われた。その中で区より建替え計画の概要について、建替え後の住所は竹の塚地域内で検討し、棟数は現状の2棟から1棟とする旨の説明があった。以前にも提案したが、都営竹の塚六丁目アパートの創出用地も視野に入れつつ、現在、竹の塚地域学習センターに入っている福祉事務所や区民事務所等の機能移転も考慮しながら、複合的に区営竹の塚六丁目アパートの建替えを丁寧に、進めるべきと考えるが伺う。 (8) 竹の塚地域学習センターは、施設全体がバリアフリーになっておらず、竣工後46年経っており老朽化が顕著に表れている。先般も排気口の不具合によるダクト工事が行われたが、補修工事を繰り返すのではなく、地域に根差すシンボリックな地域学習センターとしての抜本的な建て替えを要望するが伺う。 また、以前UR都市機構が第三団地居住者に行ったアンケートにおいて竹の塚地域に文化施設を望む声もあったことから、文化施設も含めた施設として検討すべきと考えるが、併せて伺う。

	35番 くぼた 美幸
行政区分	質問の要旨
	(9) 高齢者の健康保持・福祉の増進を目的とした悠々会館は大規模改修工事を経て、昨年12月にリニューアルオープンした。近隣のスイムスポーツセンターと共に地域のみならず遠方からも利用者が訪れ好評である。しかし、悠々会館は利用者が固定化されており、新規で特に一人では入館しづらいとの意見を以前から聞いていたが、リニューアルオープンに当たり、どのような工夫をされたのか伺う。 (10) 西新井駅東口のタクシー等の待機場所については、現在、タクシー等が待機できる場所が無く、路上で待機しているタクシーと送迎で来られる自家用車が朝・夕は混在しており大きな事故に繋がりがねない。「待機場所の整備をすべき」との質問を以前行い、区も実態調査に動いた。その後の進捗状況を伺う。 また、将来的に私は、民有地も含めて東口広場の充実を図るべきと考えるが、併せて伺う。 (11) 島根・六月地域は縦に旧日光街道や六六通り、横に環七通りや環七北通りなどの道路が整備されているが、視覚障害者用の点字ブロックが整備されてない箇所がある。区の条例では、視覚障害者の移動円滑化のために必要であると認められる箇所に、点字ブロックを敷設するとある。視覚障がい者は交差点だけに点字ブロックがあっても、交差点と交差点を繋ぐように点字ブロックが続いていなければ方向が分からなくなるとの切実な声がある。旧日光街道や竹の塚センター通り等の主要な幹線道路から点字ブロックを全て敷設されるよう要望するが伺う。 (12) 環七北通りには、はるかぜ7号が運行されているが、今年度中に運行終了となる。この路線の地域は島根・栗原等で、このはるかぜが無くなると今まで以上に交通不便地域として、特に高齢者等にとって大切な交通手段が無くなる。入谷・鹿浜地域で始まったデマンドタクシーの実証実験に期待が掛かるが、地域の声を聞きながら是非、島根・六月・栗原地域においても新たな交通手段を検討すべきと考えるが伺う。